

— 松平で暮らす —

Uターン・Iターン 移住者インタビュー

松平の豊かな自然
あたたかな人々との暮らしを満喫しながら
積極的にさまざまな地域活動に取り組む
若者たちにインタビューしました。



Uターン 安藤さんファミリー



「あまり知られていないことですが、松平地区は土がとても良いんです。畑の獣害がひどくても離れたくないですね」と話すのは、滝脇町で「くらら農園」を営む安藤源さん。さち子さんとの結婚を機にUターン就農して13年になる。3男児を育てるファミリーだ。

源さんは中垣内町の出身。三重県の農業高校から沖縄県の大学へ進んだ。卒業後はベンチャー企業で働いたものの、農業へ思いが高まり1年半で退社。さち子さんと結婚して松平へ戻ってきた。県の農業大学



校で1年研修したあと取り組み始めたのは「七草」と「ナス」の2本柱。一日12〜15時間も働く生活は心身ともに苦しかったが、徐々に改善して3年目頃から軌道にのつてきた。5年目にはJAの七草部会長を任されている。

頑張っている姿をみて応援する人も増え、高齢農家から農地を任せられるようにもなつて、耕作放棄地解消の地域貢献にもつながっている。管理する農地が増えた今は、柱の一つだったナスを管理しやすいトウモロコシに切り替えた。その味がとても好評だ。最近は有害鳥獣の駆除員としても地域に貢献している。

妻のさち子さんは神奈川県横須賀市の出身で、沖縄に移り住んで社会福祉の仕事をしてきた。源さんとはハンセン病療養所のボランティアで出会ったそうだ。

結婚して見知らぬ豊田市へきてからは、子育てをしながらファシリテーターの仕事を探してきたが、人手が足りず現状打破に悩んでいた源さんと一緒に農業をやることに。人と話さず黙々と農作業をするのは苦手だと思っていたが、やってみると意外に自分に合っていたそうだ。自家用野菜にも取り組んで自給自足的な暮らしも目指している。

さち子さんは子どもの健全育成の市民活動や親子劇場の役員、滝脇小学校の読み聞かせボランティアなどの活動も行っている。松平地区の定住委員にも選ばれ、小規模校の特性を生かして小学校を存続させたい気持ちも強まっている。